

よらいや  
よらいや

## 公民館



## 街頭指導に立って思うこと

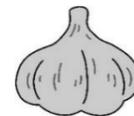
年末街頭指導に参加しました。青中西側の大きな交差点ですが、そこを通る小・中学生はほとんどが先に挨拶をし、停まってくれた車には頭を下げていました。今の青小・青中の子どたちはよくできているなと思います。先日サンマート近辺を運転していて、横断したような親子がいたので停まってあげたら、母親も子どもも最敬礼をしてくれました。このような姿を見ると、次からも停まってあげたいと思います。母親の見本的な姿が子どもの当り前の姿になるのですね。

悪いところを列挙してマナーがなっていないと指摘する前に、前述の母親のように大人が見本を見せてやる方が大切だと思います。大人も子どもも、止まってくれた車に当たり前のように頭を下げるような町は素敵ですね。

青谷を訪れた人が、このような素晴らしい青谷の子どもを見たら、普段は止まったことがない人でも、青谷に来たら止まってしまう・・・そんな町になったらいいと思います。



## とくさんの畑日記



## 大根 最終回 (4回目の種まき その後)

前号ではマルチで温めた大根と、そのままのと2種類作ったと書きましたが、その後1か月して結果が出ました。結論、どっちも全くだめでした。下の写真のとおり、マルチで温めてかいわれ大根のようなになった方は、マルチを外すと少しは育ちましたが、1ヶ月たっても本葉は2枚、そのままの方も、多少元気そうですが本葉は2枚。どっちもダメだったということです。スーパーでも大根はほとんど並んでいないし、あってもめっちゃくちゃ高いですね。どの農家も大根が不作だったのでしょう。私も4回の種まきの末がこのような結果で、かなり落ち込んでしまいました。奇跡的に10本ほど食べられるサイズのもののできたので、大切に食べたり配ったりしています。

【マルチをした大根】  
いつまで待っても本場は2枚で、かいわれ大根のような感じ。



【普通に蒔いた大根】  
多少元気そうだが、やはり本葉は2枚。今度は気温が足りないか？

シリーズ 知っていましたか、青谷のこと？

## 青谷が「卓球のまち」と言われる理由

青谷というと卓球の町と言われていました。しかし、若い人はどうして青谷が卓球の町なのか知らないと思います。そこで、その理由を調べてみました。

それは53年前、東京で卓球日本一のクラブチームに所属していた奥崎の山根敬一さんが、25歳で青谷に戻って小・中学生に卓球を教えました。それまで青谷中は県大会でほとんど勝ったことがなかったのに、3年後に県で初優勝し全国大会に出場しました。4年目から山根さんは青谷高にも通い始め、初年度に全員1年生で県初優勝。それからというもの、青谷高は団体で男子30回、女子2回、青谷中は男子18回、女子は16回県総体で優勝しています。また、昭和60年にはわかとり国体の卓球競技が青谷であり、青谷高の生徒やそのOBが選手として出場しました。

その後、青谷高、青谷中の卓球部OBが各地で力を発揮しているので、青谷と言えば卓球の町と言われるようになったのです。現在では、敬愛高校や城北高校がインターハイに出場するようになりました。しかし、青谷中が12月21日・22日に行われた県選抜（新人戦）で優勝し、久々に卓球で青谷が盛り上がっている・・・というのが現状です。

一方、レベルが高くなると卓球経験の少ない人が卓球をし辛くなってしまいました。

そこで、近年は卓球で優勝を目指すだけでなく、①交流する②見て楽しむ③応援して楽しむ（子どもや孫）等とさまざまな価値観で卓球する人のために、2年前から青谷町教育委員会主催で「上寺朗杯卓球大会」を開催し、弥生人の服装で出たり上寺朗が卓球をしたりとさまざまな楽しみ方を模索されています。



弥生人も卓球を楽しんでいた！

このように、最初は一人の熱心な指導者から始まったことですが、このような青谷独自の大会ができると、50年を経て、総合的に「卓球の町」らしくなってきたようです。

なお、土曜日の夜7時半～9時半までトレセンで、初心者を含むたくさんの方が卓球を楽しんでいます。覗いてみてはいかがでしょうか。

## おわりに

新しい区の役員を決められたことと思います。以前に区長の仕事を楽しみましようと思いましたが、なかなか楽しめるものではないように思います。区民が協力して区長の仕事を軽減し、なるべく区長の仕事を楽しめるようにしてあげましよう。